

恵庭市長定例記者会見（R5. 6. 27）



お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、第2回定例会が終了しましたので、議会を終えての所感、並びに今後予定する事業などについて発表させていただきます。

今議会におきましては、「令和5年度一般会計補正予算」などについて審議いただきました。その全ての議案についてご承認いただきましたことに、まずもって感謝いたします。

また、一般質問や各常任委員会の中で、市政の各般にわたる課題に関し、ご提言をいただきました。

これら議会からのご指摘を大切にしながら、さまざまな施策の推進を図って参ります。

それでは、本日の発表内容を述べさせていただきます。

初めに、「恵庭市総合防災訓練」についてであります。

今年度は4年に一度実施しております総合防災訓練の年となりますが、日程につきまして、8月26日から27日にかけて実施いたします。

訓練の概要であります。今回の訓練は震度6強の地震を想定し、3部構成で行います。

組織的な災害対応を訓練する第1部においては、「市内一斉シェイクアウト訓練」から始まり、「職員の非常招集」「災害対策本部訓練」「自主防災組織や市内各事業所による訓練」などを計画しており、災害対策本部訓練にあたっては、災害対策本部のデジタル化を図るため、今年度新たに導入する公用スマホなどICT機器を活用して実施する予定であります。

第2部は、26日午後から桜町の多目的広場を会場に、展示・体験型の訓練を実施します。こちらは、AEDや消火器、給水等の体験をはじめ、国土交通省、自衛隊、N T T等が所有する車両や装備等の展示といった内容を予定しております。

第3部は、夜間の避難所運営訓練となります。これは、実際に避難所を開設したうえで職員等が宿泊し、避難所運営の在り方や問題点などを検証するものであります。

以上、今年度の総合防災訓練の概要となりますが、現在、実施に向け関係機関と協議・調整しながら準備を進めているところであり、詳細については、8月の広報など

で周知して参りたいと考えておりますので、多くの市民の方に参加していただければと願っております。

2点目は、「北海道文教大学地域創造研究センター設立記念フォーラムの開催」についてであります。

2023年4月に北海道文教大学に地域創造研究センターが設立されました。センターは、2021年に開催された、恵庭市政施行50周年記念フォーラムにおける恵庭宣言を受け、小磯先生にもご助言を頂きながら、当市と北海道文教大学とで検討し、組織されたものです。

センター自体の目的は、激しい変化の時代に、地域社会が向き合っていくべき課題に対して、恵庭市や民間企業との連携により、課題の解決に向けた創造的な地域政策を提起していくことにあります。

この度、令和5年8月5日に北海道文教大学鶴岡記念講堂において、センターの設立を記念し、フォーラムを開催することとなりました。本フォーラムでは、先の50周年記念フォーラムでも登壇頂いた山崎先生や大西先生など、地域政策研究の専門家などと幅広く意見交換しながら、センターが目指す活動の意義や方向、課題等について考えるキックオフの場となっていることから、ぜひ多くの市民の皆様にご参加頂きたいと思っています。

3点目は、「制服リユース事業」についてであります。

実施主体は、恵庭消費者協会でございますが、ごみの発生抑制と再利用の促進及び消費者の支援を目的とし、制服の無償引き渡しを実施するものでございます。実施期間及び受付日時については、資料3に記載のとおりです。実施対象校ですが、市内中学校5校のうち、恵庭中学校、恵北中学校、恵み野中学校、市内高校3校うち、恵庭南高校、文教大附属高校となっております。

4点目は、「古布・古着拠点回収の再開」についてであります。

令和2年6月から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、受入れ先やリサイクルルートが確保できなくなったことから休止しておりました、古着、布類の拠点回収を再開するものでございます。なお、回収場所については、市役所2階廃棄物管理課窓口横、島松支所、恵み野出張所としております。令和2年6月まで市役所の玄関入口に回収箱を設置しておりましたが、不法投棄が絶えないことから、市役所の開庁時間に合わせ回収することとしました。

5点目は、「北海道総体空手道競技大会の開催」についてであります。

昭和62年以来、36年ぶりの北海道開催となります。「北海道総体2023（にーまるにーさん）」空手道競技大会が、7月26日から29日までの日程で、恵庭市総合体育館をメイン会場として開催されます。

都道府県予選を勝ち抜いた選手たちが集結する本大会には、市内で唯一空手道部のある恵庭南高校も、男女「個人形」、「個人組手」、「団体組手」の全ての種目において北海道代表として出場します。

本市といたしましては、選手や関係する皆様の「記憶に残る」有意義な大会となるよう、応援メッセージボードや花装飾のフォトスポットを競技会場に設置するなど、お迎えの準備を進めております。

全国から訪れる選手や関係者が本市の多様な魅力に触れ、関わる人々の心に残る機会となるよう、主催団体と連携を密にしながら大会を運営していくとともに、高校生たちの一生に一度の特別な大会で、熱戦が繰り広げられることを期待しております。

6点目は、「えにわ応援商品券事業の実施」についてであります。

本定例会の初日に議決いただきました補正予算により実施する「えにわ応援商品券事業」は、光熱費の高騰の影響を受けた生活者に対する支援として、令和5年7月31日時点で住民基本台帳に登録されている全ての市民に対し、市内で1人当たり2,000円分、すべて特定店舗で使用了場合は最大2,400円分使用できる商品券を配布する事業を実施することといたしました。

総務省が実施しております家計調査による電気、ガス、燃料費に係る上昇分について、1人当たり1か月分相当を支援するものです。

市民の皆さまには10月頃に配布することを予定しておりますので、配布までお待ちいただきたいと存じます。

7点目は、「令和5年度恵庭市企業見学バスツアーの実施」についてであります。

この事業は、主に市内高校生を対象に、就職を希望する生徒の就職活動を支援するとともに、市内企業の若年層の人材確保を促進することを目的として実施するものであります。

現在、参加される生徒を募集中であり、保護者同伴での参加も可能としておりますので、就職を希望されている生徒には是非ご参加いただきたいと考えております。

8点目は、「恵庭市花と緑の記念日事業」についてであります。

6月24日より7月2日までの9日間、花の拠点「はなふる」におきまして、第34回「恵庭花とくらし展」を、昨年開催した「全国都市緑化北海道フェア」の一周年記念事業として、期間や内容を拡大し、開催しております。

会場では、花の装飾の他、市民手作りの作品展示やワークショップを行っております。また、土日には市民参加によるステージイベントやオープンガーデンツアーを実施しており、すでに多くの方々に参加し楽しんでいただいております。

また、7月13日の「恵庭市花と緑の記念日」は、「エゾヤマザクラ」の記念植樹の他、小学生による記念日宣言などのセレモニーと半崎美子さんのコンサートを実施いたします。

このような取り組みにより、さらに「花のまち恵庭」を広く周知するとともに、花のまちづくりを次世代や未来につなげ、魅力あるまちづくりを進めて参ります。

●質疑応答

発表項目について

（記者）恵庭市総合防災訓練について、4年ぶりの開催ということだが、これまでと違うポイントは。

（課長）今回は防災DXとして、公用スマホの活用を中心とした様々な検証を行う。また、避難所の宿泊を伴う訓練というのは今回初め実施するもの。

（記者）過去には道内で大きな地震があったが、今回の防災訓練の位置づけは。

（市長）地震はいつ起こるかわからないので、それに備えるための防災訓練という位置づけ。公用スマホを活用し、現地の映像を本部で見ながら対応策を考える。それに迅速に対応できるかについて確かめていきたい。宿泊訓練は職員だけでなく、町内会や市民の方々にも参加・見学してもらい、実際に地震があったときの避難体験をする場としたい。

その他について

（記者）千歳市のラピダス進出を受けて、恵庭市における工業団地造成の検討状況は。

（市長）土地利用の関係があり、地権者もいることなので、調査しながら可能性について検討していくという段階。

（記者）千歳市の新たな工業団地造成について、恵庭市としてはどのように感じているか。

（市長）正確な情報が得られていないのでわからない部分が多々ある。千歳市は当市と同じ都市計画圏域となるので、意見交換をしていければと思う。

（記者）今後、工事関係者も含め千歳市周辺に人の動きがあるかと思うが、それについての期待はあるか。

（市長）そうした波及効果が当市にくるということについては、非常に期待している。

（記者）恵庭市内の牧場で働いていた知的障がい者３人が虐待を受けていたということを知り、恵庭市障がい福祉課が把握しながら、何かしらの指導などを講じなかったことについて、見解を伺いたい。

（市長）これから訴訟になるという報道もあるため、現段階で話をすることはできない。

（記者）昨日公開質問状を出す予定だったが、市は受け取らなかったのは、どのような理由か。

（部長）先方からは先週金曜日に問い合わせがあり、今後裁判が予定されているようなので、裁判の内容に関わるということについて受け取りできないと伝えた。昨日来庁されていたが、伝えたとおりの内容を説明し、受け取らなかった。

（記者）これから調査委員会が設置されるとのことで、調査方法や目的は。

（部長）今後、裁判の中で重要な資料になると考えている。中身については、現段階で答えられない。

（記者）昨年の全国都市緑化フェアから１年が経ち、現在開催中の花とくらし展をどのようなイベントとしたいか。

（市長）全国都市緑化フェアの１周年記念として、拡大して実施している。昨年は主に札幌周辺の来場者が多かった印象。こうした市外の方々が来てくれることを期待している。花のまちづくりを続けていくうえで、全国都市緑化フェアの開催をレガシーとして残していきたい。今後も毎年開催していく予定。

（記者）フェアが開催されたことで、「はなふる」の知名度も上がってきた印象だが、観光への期待は。

（市長）「はなふる」が道内の花の拠点になることを期待している。旭川市の上野ファームや十勝千年の森などのサテライトみたいなガーデンが「はなふる」にあるので、そこを拠点に全道花巡りツアーの出発地にするといったことができれば、まさに花の拠点になるのではと考えている。